

2017 年度全国スキーパトロール総会議事録

日時：2017（平成 29）年 03 月 25 日（土） 13：00～16：00

場所：福島県・ヴィライナワシロ 3F 1961

■総会開会式

○開会の辞

○責任者挨拶 五十嵐憲雄 教育副本部長

北海道から鳥取まで全国各地から猪苗代に集ってもらいありがとうございます。日本スキー教程安全編が6年ぶりに発刊され、皆様はじめ役員の協力で立派な教程が発刊できたのでご覧ください。また、昨年までのスキーパトロール技術競技大会は、今年から全国スキーパトロール総会として開催することにしたので、皆様のご協力をお願いしたい。

安全対策部関係者にはスキー場関係者が非常に多いと感じます。私も17期公認スキーパトロールなので、パトロールの仕事の中身はある程度わかるつもりです。低迷しているスキー界を皆様力で盛り上げるために、「うちのスキー場はこんな事やっているよ」等、活発に討論してもらえればうれしいです。最近バックカントリー（BC）など外国人客が非常に多く、福島でも遭難騒ぎがあるなど、パトロールの出動範囲が非常に広がってきています。そんな中で、スキー技術や搬送技術なども含めて、パトロールの総合的な質の向上を目指した研修が必要です。この総会が、これらの目的の達成に貢献できれば幸いです。皆様から忌憚のない意見をいただきたい。

また今回、理論研修等々時間が押し迫った中で行われます。また、夜の懇親会で友達をいっぱい作っていい思い出を残してもらいたい。競技大会がなくなったかわりに、デュアルレースに全員が参加してもらい、いい思い出を作ってもらいたい。

最後になりましたが、本総会開催に当たりご協力いただいた、福島県スキー連盟会長はじめ役員の方々、猪苗代スキー場、ホテルヴィライナワシロの皆様感謝申し上げます。

○来賓挨拶 福島県スキー連盟教育本部長 阿部和博

全国スキーパトロール総会にお招き賜りまして誠にありがとうございます。本来なら福島県スキー連盟鈴木安一会長が参りご挨拶申し上げますところですが、所用のため阿部が変わって挨拶申し上げます。

まず全国スキーパトロール総会第1回総会が福島県で開催されることを非常に光栄に思います。また本総会に参加された皆様に歓迎申し上げます。

全国的にスキー界は低迷しており、福島県のスキー場運営に関しても徐々に回復しているものの、なかなか最盛期には至っていません。

さらなる集客のため、関係機関、スキー場パトロールの皆様をはじめ、スキー学校、県、地元が一体となってがんばっています。本総会にご参加の皆様知恵をお借りし、さらなる発展に繋がればと思います。

有意義な総会となることを祈念し挨拶とします。

○来賓挨拶 株式会社マックアースリゾート福島支配人 角田泰将

皆様こんにちは。全国各地からこの猪苗代スキー場にお越しいただき本当にありがとうございます。

猪苗代スキー場は、昭和23年創業で、平成に入りミネロエリアゲレンデを新設し、昭和から平成へとスキー最盛期にスキー場を運営してきました。昨年は深刻な雪不足に悩まされ、今シーズン始めも心配されましたが、3月の今になってなぜか2月のようなゲレンデコンディションを保っています。

今日は天気も良く猪苗代湖もよく見えるので、色々なゲレンデで滑走を楽しんでいただいたうえで、全国各地のスキー場でご活躍の皆様方から、猪苗代スキー場へのいろいろなご意見を、情報交換会で頂戴できれば幸いです。

最後になりますが、全国スキーパトロール総会の成功と、スキーパトロールの皆様発展を祈念し、歓迎の挨拶とします。

○来賓紹介

福島県スキー連盟理事長 阿部幸喜

福島県スキー連盟安全対策部長 安田耕寿

日本スキーパトロール協議会会長 一戸 繁輝

猪苗代スキー場パトロール隊長 内海将

○閉会の辞

■2017 年度全国安全対策委員長会議

【司会】秋元洋一

1. 出席者紹介

(公財) 全日本スキー連盟教育本部

理事・副本部長：五十嵐憲雄

安全対策委員会委員長：秋元洋一

安全対策委員会副委員長：富樫泰一

安全対策委員会副委員長：鈴木恵太

日本スキーパトロール協議会会長：一戸繁輝，同事務局長：保坂淳司

加盟団体安全対策委員長または代理人

後藤 博昭	北海道	和田 栄一	秋田県	横島 和美	埼玉県
小笠原 崇文	青森県	柴田 陽幸	山形県	笹生 修一	神奈川県
竹原 伸郎	青森県	高橋 弘一	山形県	原野 浩司	富山県
高畑 伸也	岩手県	蜂谷 靖	山形県	吉本 幸司	石川県
鈴木 寛	宮城県	安田 耕寿	福島県	扇浦 行弘	福井県
高橋 元一	宮城県	石川 由紀子	茨城県	舟久保 元孝	山梨県
三神 良太	宮城県	新井 和夫	栃木県	内方 陽一	岐阜県
吉田 正明	宮城県	茂木 真理子	埼玉県	小椋 健司	愛知県
小松 信一	秋田県	伊藤 清美	埼玉県	竹内 和雄	三重県
佐藤 昭造	秋田県	栗田 啓一	埼玉県	井上 修三	滋賀県
畑山 卓二	秋田県	佐藤 俊寿	埼玉県	西垣 勲一	兵庫県
小幡 清	秋田県	山本 博之	埼玉県	宮本 亮	鳥取県

2. 開会宣言（秋元洋一）

昨年まで継続してきたスキーパトロール技術競技大会は、参加チームの減少等が食い止められずに中止せざるを得なくなった。これに代わる事業として前部長と協議した結果、例年11月初旬に東京で開催していた全国安全対策委員長会議と3月末の技術競技大会をミックスし、全国のスキーパトロールや雪上安全に携わる関係者が一堂に会する、FIPS 総会の日本版としてこの総会を開催することになった。従来の委員長会議は委員長かその代理のみの参加だったが、本総会はより多くの関係者が参加できるように改めていきたい。また、雪上安全に関わるより広範囲の関係者に集ってもらい、意見交流を図って行きたい。今後この総会を意義あるものに育てていきたいので皆さんの協力をお願いしたい。本総会開催の経緯と趣旨を説明し挨拶にかえます。

3. 報告事項

(1) 第20回 FIPS 総会について（秋元洋一）

2016年4月2日～9日、イタリアのパツトナーレで開催され、SAJからは前部長の岡田理事と秋元と通訳が参加した。その他 JSPA 事務局長の保坂さんとその息子さんが参加した。救急法については、最新の救急資機材の紹介や、海外でも使われている三角巾の重要性を再認識できた。頸椎損傷の手当やバックボード、骨折の手当について研修した。今総会でも地元パトロール隊が行う雪上救急処置のデモンストレーションを見てもらい意見交換したい。FIPS 会議では雪崩や山岳専門のスキーパトロールと一般ゲレンデのスキーパトロールが意見交換できた。また、救助現場でのドローンの活用も話題となっていた。今総会では研修会参加者も一緒に活動できる機会を設けた。FIPS 総会の中で、震災のため幻となった2011FIPS ルスツ総会を是非日本で開催できないか要望があったので実現できるよう努力したい。次回の FIPS 総会は2018年1月下旬にロシアのソチで開催される。参加してみたい人は保坂さんに問い合わせてもらいたい。

(2) 2017 年度安全対策部事業報告（富樫泰一）

各加盟団体の皆様には SAJ の事業にご協力いただき、研修会・検定会とも無事終了することができたので御礼申し上げます。事業はまだ全部終わっていないので途中経過報告となる。配布資料は白黒で大変見にくいですが完成版はカラーPDF をホームページにアップする。

始めに、シーズン始めの一番重要なスキーパトロール中央研修会が11月16日～18日に熊ノ湯スキー場で開催されたが、2年続きの雪不足のために雪上研修ができず、みっちり座学研修と会議（安全対策部事業内容の確認、検定内容の確認、事業の割り振り）を行った。その他、ブロック毎の事業打合わせ

せや、各部の報告が中央研修の中心となった。

続いて、各ブロックで行われたスキーパトロール技術員研修会について、北海道ブロックは11月25日～27日、札幌国際スキー場で行われた。東北ブロックは、専門員が3名、技術員が7名で、雪不足のため室内研修が主となった。北関東・南関東・甲信越・東海・北陸合同のブロックの研修会は群馬県鹿沢スノーエリアで行われた。参加人数は専門員が4名、技術員が22名、総勢26名の一番規模の大きな技術員研修となった。主な研修内容は、ロープ、三角巾、AEDを用いたCPR、バックボード、スキー基礎技術、搬送技術、リフトからの乗客救助訓練、ロープアクセス・ロープレスキューを行った。新人技術員が6名いたため、独自メニューで研修を進めた。西日本ブロックは、12月10日～11日、専門員が2名、技術員が4名で研修が行われた。

スキーパトロール検定会は、2月17日～19日、第1～2会場とも同一日程で行われた。参加状況は、第1会場（ルスツリゾート）：申込25、受検25、合格22、不合格3名、合格確率88%。第2会場（胎内スキー場）：申込49、受検44、合格39、不合格者5名、合格率79.6%だった。いずれの会場も不合格者のほとんどが学科試験で不合格となった。昨年、新教程が発行され理論検定試験の出題内容が全く新しくなったため、十分な対策ができなかったようなので、来年度はしっかり理論試験の勉強ができるような体制を作っていきたい。

続いて公認スキーパトロール研修会（東日本会場）は、現在ここで開催されている。西日本会場は3月4日～5日に行われ、「室内研修では救急棒、三角巾、ロープワーク、バックボード等の取扱訓練を行い、雪上研修では改訂された検定種目の内容を再確認した。また、ビーコン、プローブ、エアバッグ等の使用方法と埋没者捜索訓練を行った。室内研修、雪上研修共にスキー場関係者のご理解、ご協力によって有意義な研修ができたことに感謝して報告する」とあるよう、BC関係の研修が充分に行われた。今シーズンもBC関係の遭難・死亡事故が多発しているため、さらに充実させる必要を感じている。今シーズンすでにスキー関係で8名の死亡者が出ている。このペースで行くとたぶん10人超えるのではないか。

続いて各加盟団体主管のスキーパトロール研修会19事業一覧を記載している。もう終了しているものが殆どだが、まだ報告を受けていない所や青森県の春山訓練がまだ終了していない。参加者総数は415名で、前年度と同数である。内訳は、SAJ主管の東日本会場が69名、西日本会場が57名、加盟団体主管が289名である。

(3) 新教程安全編正誤表について（富樫泰一）

新教程のゲラ校正の時間が十分とれずに校正漏れがたくさん見つかった。正誤表を用意したので、教程を赤字等で修正してもらいたい。検定絡みの訂正もあるので、口頭で謝罪と訂正をしたい。106Pの「ダブルフィッシャーマンズノット」とある写真は、単なるストッパーあるいは止め結びである。正確な名称は「ダブルオーバーハンドノット」である。どうしてこういう間違いをしたかという点、ダブルフィッシャーマンズノットは、ダブルオーバーハンドノットを互い違いに2つ同時に作るとダブルフィッシャーマンズノットになる。単独ではダブルオーバーハンドノットといい、検定試験として採用する際に、1個結ぶか2個結ぶか時間が変わってくるのと、ロープの両端を使う結びなのでロープ中間が使えなくなる等、種目の組み合わせを考えている間に、校正漏れが起こってしまった。検定会前に気がついたが、中央研修会や技術員研修会等が終わってからで、受検者に影響があるため、シーズン終わってからの公表しようとするタイミングになった。改めてお詫び申し上げ訂正願います。その他、GL2015に則ったCPRについて校正漏れはないが、それ以前に書かれた資料や図案を元にしたものの中にGL2015以前の記載があった。質問等あれば、後でお受けする。

(4) スキーパトロール研修テーマについて（影山広美）

研修テーマとして、スキー技術に関するテーマと、搬送技術に関するテーマを挙げた。基礎スキー指導者の研修会テーマは、技術と指導に関するテーマを掲げているが、安全対策部のテーマは、技術を「こうしなさい」「ああしなさい」ではなく、「この事について問題意識を持ちながら研修していきましょう」というスタンスで、そこが「こういう技術だよ」という事ではないので、ご理解いただきたい。

テーマIのスキー技術「横滑りを極める」では、1995年以降降用具が多様化し、人それぞれ場面場面で技術も違い、いろんなスキーを持ち寄ってスキーを滑っている。基礎スキー技術から横滑り種目がなくなったが、スキーパトロールのスキー技術は横滑りがベースである。様々なスキー用具を用いて、斜め前方、斜め後方、真下の方向にスムーズに横滑りができるか、もう一度横滑りをしっかりと見つめ直すことを目的とした。

もう1つは、スキーパトロール本来の任務に立ちかえり、より安全で安定したボート搬送である。受

講者により現場で数多く搬送している場合や、そうでない場合もあるので、受講者の状況やニーズに合った研修をおこなう。また、今まで実際に現場で使われている2人搬送がメインテーマとして取り上げられなかったので、より安全で安定した搬送について取り上げた。来シーズンも同様に、横滑りと搬送技術をテーマに取り上げて実施していきたい。

(5) 加盟団体報告

【司会】加盟団体報告の前に明日10時半からの搬送デュアルレースの説明をしてから、加盟団体報告に移りたい。昨年までは、アキヤボート搬送を含む種目で競技が行われたが、今年は総会という形になったので、エキシビジョンマッチとしてのアキヤボート搬送デュアルレースを企画した。多くの方が参加し楽しんでもらいたい。デュアルレースなので、トーナメント方式で戦い最後に優勝チームを決める。1チーム4名、県連単位でチームを組めない場合は複合チームも可とする。ルールは単純で、「2人で搬送」「傷病者役が乗る」「旗門を通過する」。前後2人牽き、1人は傷病者役、もう1人は板持。途中の中継ポイントで、前後搬送者、傷病者役、板持の入れ替えを行う。緩い斜面なので安心して滑れる。バッチやメダルは用意していないが、豪華賞品を用意している。この会議の後、ブロック毎の討論会の中で確認願いたい。従来競技会は若者しか出られないが、もうすぐ還暦の私も出る。研修会参加者からもエントリーを募り交流を深めてもらいたい。

加盟団体報告を始めるにあたり、資料の用意がある場合はそれを配布してもらい、無い場合は口頭で報告願いたい。報告順は名簿順とする。各加盟団体の代表1名が自己紹介後に報告願いたい。

○北海道スキー連盟（後藤 博昭）

皆さんこんにちは、北海道スキー連盟の安全対策部の後藤と申します。北海道でパトロールをしています。よろしくお願ひします。資料につきましては2つありまして、A4横で綴じた北海道スキー連盟安全対策部H29と、もう1つが冊子になって2016年度スキー場障害報告書というちょっと厚い綴じた2種類でございます。それを掻い摘んで説明させていただきます。その資料は毎年北海道スキー連盟の安全対策部での取り組んでいる事業に付きまして4枚ほど纏めてさせて頂きました。前半2枚が今年度の資料で後半2枚が昨年度の実績です。今年度につきましては月並みなのですが北海道につきましてはブロック研修会を札幌の札幌国際スキー場で行いました。現在SAJのブロック研修員が16名、北海道の技術員が16名、全部で32名、その他2名という形で活動しています。特に上から2つ目のコマの安全対策部技術研修会というのを設けておりまして、本道のスキー場ではなかなかアキヤボートが出来ない為、そこではアキヤボートを使用しない普通の研修をメインにし、別な日を設けてスキー場の斜面を貸し切り、アキヤに特化して朝から晩まで引いています。一人引き、二人引き、研修テーマのやり方を専門の先生にみっちり学んで、それを持ち帰り検定会、各地区養成をやるようにしています。大分立ちますが別にやる事で分けてみっちりできる為お互いの教え方とか、高齢者の方、女性の方、力のない方に教えたり、逆に技術を持っている方にそういう事を教えるよというところとすごく有効になっています。スタッフの養成講習会は北海道につきまして2回検定前に行っています。1というのは書いてある通りで、養成2は実際のルスツリゾートで検定を行います。検定と同じ斜面で同じようなタイムを計ってポール設置してやっているのがその研修会でございます。あと、研修会は各所属団体になりましたので、北海道地区は広いので大体2会場、ルスツ会場と美唄会場、美唄とは札幌と旭川の間位のリフト1本しかないスキー場なのですが、逆に十分練習は出来まして、なるべく北の方とか東の方とかに分けて毎年2会場で地区連の実施でやっています。検定会は2月17日と19日、北海道のスキー技術選が3月に今年と来年ある為、時期が早くて受検者は苦勞されましたが男性20名、女性5名、計25名の合格者20名となっています。障害報告書というのがお配りした紙です。2枚めくって頂くと始めるという事でこの調査の表紙見た事あるという方もいると思いますが、小林先生がやっているスキー安全対策協議会と北海道も同じような用紙を用いて、北海道内43のスキー場を書いてもらい集計したものです。3ページの方に協力頂いたスキー場、それを分析しまして書いてあるのが独自の調査内容になってます。年々AEDの設置状況も増えていきますし、ヘルメットの着用の方が増えているのが主な点です。支援事業という事で安全対策部として北海道の開かれる事業、1月27日と28日の北海道技術選大会、全日本予選大会、ジュニアの育成に取り組んでいます。各地区の決勝大会がありまして、それに安全対策としてでています。第54回全日本スキー選手権には、専門委員他8名出まして、2コースでやりましたので4名ずつ配置しまして、アキヤボードをコースに配置して医師系の進行をしました。あと今、今日明日と第1回ジュニアの全日本技術選大会をルスツスキー場でやっております。同じ斜面を使って開催しています。北海道の方が多のですが全国から260名位の選手が参加しています。2日間にわたって安全対策要員として医

事係という形で勤務しております。以上で終わります。

北海道の★★です。北海道は本州と違って標高の高い山岳スキー場が少ないので地震があつたりとか雪崩があつたりとかの事故は少ないんですが、北海道の一番悩みは海外からのスキーヤーが非常に増えていて、特にニセコ地区は日本人が入れないような状況です。FIS10 ルールの外国語版を作って貼りだすとか、スノースポーツ基準の外国版を用意するとか、管理区域外に入ってきてなかなか戻ってこないことが頻繁にあります。北海道安全対策部としては、課題として検討事案に挙がっております。

○青森県スキー連盟（小笠原 崇文）

こんにちは、青森県スキー連盟の小笠原です。安全対策委員です。よろしくお願ひします。安全対策委員会副委員長の竹原伸郎です。よろしくお願ひします。資料は準備しておりませんが委員長から資料を預かってきているのでそれを報告したいと思います。青森県の安全対策委員会の活動報告という事でどういふことをやってきたかといふことを報告いたします。去年のシーズンになります。28年4月9日から10日、SAJパトロール研修会が青森県のパトロール春山訓練を兼ねて開催されました。今シーズンに入りまして11月23日が指導員研修会と合同でパトロールの理論の前期研修会が開催されています。12月24日から25日に掛けて同じく指導員研修会と合同でパトロールの後期研修会が開催されています。年が変わりまして29年1月8日から9日に掛けてパトロールの受検者の第1回養成講習会が行われています。1月29日に全日本スキー技術選手権大会の青森県予選の協力をしております。2月3日から5日までパトロールの受検者の第2回養成講習会が行われています。2月11日が青森県テクニカルチャンピオンシップマスターズ大会の協力をしております。2月18日準指導員検定会の協力です。2月18日から24日まで委員会の対応という事で救護班として大会の補助をしております。4月9日から10日までパトロール研修会を兼ねた八甲田で春山訓練を開催予定になっています。県連の各行事に協力してきたという事で、スキー選手権大会、県マスターズ技術選手権大会、スキーの準指導員検定会、これは毎年協力してきたという事で先ほど報告した通りですが、その他大きな大会が最近ずっとありまして、尾張スキー場ですが13年シーズンから14年シーズンに掛けて東北中学大会を皮切りに連続で全国大会が開催されています。14年シーズンから15年シーズンは全国中学大会がありました。昨年15年シーズンから16年シーズンはインターハイ、今年はインカレがありました。最後に国体の予定があります。ヘルメットの着用について、今年度県内のパトロールにヘルメットの交換時期に差し掛かっているという事で全部まとめて購入と思っています。更新も行っています。県連やJSPAの行事、事業を元にポスターなのでヘルメットの有効性を訴えております。スキー指導員研修会、春山訓練などでヘルメットを着用して、地元スキー場でのパトロール活動においてヘルメット着用をして有効性を訴えていくという事で、徐々に着用が定着しつつあるようです。報告は以上です。

もう一つよろしいでしょうか。先ほども申しましたが青森県では今年4月2週目八甲田において春山訓練を実施しています。春山訓練は全日本の研修会にもしていますので、規定人数だけになりますけど、まだ全日本の研修を受けていない方おりましたら毎年実施しております。いつでも受け付けておりますので参加して頂けたらと思います。よろしくお願ひします。

○岩手県スキー連盟（高畑 伸也）

岩手県スキー連盟安全対策委員会委員長高畑と申します。岩手からは私一人出来ました。今地元でジュニアオリンピックをやっておりますので皆さん医事係で参加していますので代表して私が来ております。よろしくお願ひ致します。岩手県スキー連盟の安全対策部の報告をしたいと思ひます。1つ目にスキー指導員、準指導員受検者理論講習での安全対策要項、および三角巾講習を11月末に今年は40名位の参加があつて行っております。2番目にスキー準指導員受検者安全対策実技講習は2月に2泊3日の養成講習会の中で半日時間を頂いて準指導員の方に安全講習、ボード搬送を一人一人行っております。3番目公認パトロール受検者養成講習会は12月のクリスマス時期に2泊3日で1回、2月の前半に1泊2日で1回、計2回行っております。4番の公認パトロール研修会、今年は指導員研修会と一緒に行いました。安比高原で15名前後の参加の方で行いました。報告は以上です。

○宮城県スキー連盟（吉田 正明）

皆さんこんにちは、宮城県から参りました今年から委員長になりました吉田と申します。よろしくお願ひします。資料は渡してありますので資料に基づいて話を進めたいと思ひます。箇条書きにしてありますので簡単に述べさせて頂きたいと思ひます。昨年の1月から今年の3月今日まで行った活動報告という事で、昨年1月17日と18日、昨シーズンになります。養成講習会、1月14日と15日セントメリースキー場受講者は1名、2月18日と19日2回目の養成講習会を同じ場所で、受検者は1名しかい

ませんでしたので、1名に2名の技術員がついて指導を行いました。同日、昨年までありましたので、スキーパトロール技術競技大会の合宿という事で、同一会場で選手は3名、昨年の県連会場であります北海道、こちらで宮城県から1人受検しまして合格しました。3月24日と25日長野県のダイヤモンドスキー場でスキーパトロールの技術競技大会という事で合宿を行いました。その結果素晴らしい成績を納めましたが優勝には至りませんでした。種目としては三角巾が3位、レース第2位という事で優勝するつもりで取りにいったのですが惜しくも第2位になってしまいました。年明け6月4日パトロールの協議会の総会を行いました。その際に救急法の講習を行いました。三角巾の包帯と骨折の手当やります。6月25日と26日総会、日本スキーパトロール協議会に三重県の伊勢に4名で行きました。11月27日指導員研修会にぶつけて昨年の理論研修を行いました。実技研修を12月17日と18日指導員と準指導員、パトロールを合わせましてその中でパトロール班だけの研修を行います。参加が6名、年が明けて受検者がありますので養成講習会を、1月の23日と24日と1月31日と2月1日と2回行いました。新潟県胎内スキー場において合格しました。以上です。

○秋田県スキー連盟（小松 信一）

秋田県スキー連盟安全対策部員の小松です。よろしくお願ひします。平成29年度秋田県スキー連盟安全対策部活動報告をします。11月13日指導員準指導員受検者養成講習のイベントを終了、スキー指導安全についての講習を行いました。12月24日から25日田沢湖スキー場で参加31名で加盟団体主管のスキーパトロール研修会を行いました。雪不足のために座学が中心となって新しいロープワーク・三角巾みっちり行いました。スノーボードの指導員の方々とスノースポーツの安全に関して、意見交換を行ったり、スノーボードで肩とか脱臼する人が多いという事で三角巾を使って腕の吊り方など一緒にやりました。1月13日から15日は田沢湖スキー場で参加2名で公認パトロール受検者養成講習を2泊3日の合宿形式で行いました。今後の経営としてはパトロールの資格を持っていてもなかなか現場に出ていない人はスノーモービル等乗る機会がないという事でスノーモービル等の安全講習などを行いたいと思っております。報告は以上です。

○山形県スキー連盟（柴田 陽幸）

山形県スキー連盟柴田と申します。よろしくお願ひします。2017年度山形県スキー連盟安全対策部業績報告を致します。1番目、スキー障害救急講習会としまして、11月11日準指導員受検者を対象として午前10時から11時の日程で準指導員として必要な救急法と応急処置を研修しました。2番目公認スキーパトロール養成講習会としまして12月10日から11日、公認スキーパトロール受検者を対象に1泊2日の日程で公認パトロール受検者に必要な修了過程を行っています。3番目県連スキーパトロール隊長会議といたしまして12月10日から11日、県内スキー場を対象としまして各スキー場の問題や課題を共有し活動の糧になるよう毎年行っております。別紙お渡ししましたが山形県傷害取扱い件数の内容としまして山形県にある各スキー場が協力して編集しております。以上です

○福島県スキー連盟（安田 耕寿）

こんにちは、福島県スキー連盟安全対策部長の安田です。皆様のお手元に29年度事業計画がありますが、この計画書に基づいて説明致します。毎年安全対策委員の中の日赤指導員によります日赤救急員講習検定会開いております。今年は公認パトロール受検者が4名いましたのでプラス6名の方が資格の更新ということで10名の受講者の元に開催しました。全日本の行事であります、ブロック技術員の講習会に参加して頂き12月に入り、スキー場代表者会議を毎年開いております。これは各スキー場のパトロール隊から隊長ないしパトロール隊員、またはスキー場の代表者に来て頂いてシーズンの事業計画等説明してご協力をお願いするという事です。パトロールの検定会に向けて前期と後期に分けて前期は宿泊を伴う養成講習会、後期は日帰りの講習会、その間に福島県パトロール員講習会とありますが今年は参加者がいませんでしたが各スキー場と福島県の索道協会にご理解とご協力を頂いて合同で色んな冬山の知識、救助等に関する講習会をするということで、行ってきましたが、今年参加者が居なかった為、来年以降は難しいと思っております。今研修会と初めての連泊パトロール総会、今日から明後日ですが第1回の記念すべき事業を開催して頂きましたことを感謝申し上げて報告と致します。

○茨城県スキー連盟（石川 由紀子）

お世話になっております。茨城県スキー連盟安全対策部員の石川と申します。よろしくお願ひします。本日資料は用意していませんが、茨城県連では行われている行事はすべてホームページに上げさせて頂いていて県内、また多くの方に見て頂ける様に公開させて頂いております。お時間ありましたら茨

城県安全対策部ホームページという形で見て頂けると、細かい行事も載っております。簡単に昨年度の行事の報告をさせていただきます。茨城県は雪がありませんので、県連では特に畳の上での実技練習などを多くやっております。県連安全対策部員そんなにたくさん人数はいないのですが皆さんで夏の間は三角巾やダミー人形、もしくはAEDを用いた練習を主に行っております。また雪が降り始めますと県連内でも準指養成講習会や指導員の研修会などがございます。そちらの方に安全対策部員として派遣させて頂いております。その中で活動は主に受検生に雪上での怪我が発生しやすい事案などを説明させて頂いたり、実際に三角巾を用いての救助のシミュレーションを行ったりしております。同時に県内でも公認パトロール研修会を行っております。研修会ではロープによる救助なども行っております。県連ではオリジナルの救急パックというものを作っております一袋300円で三角巾や緊急で使えるような絆創膏などをセットにして受検者や指導者の方に買って頂き、必ず背中に持って頂くような指導をさせて頂いております。どんなものが入っているか質問等ありましたら茨城県連の方へお問い合わせ下さい。以上で終了させていただきます。

○栃木県スキー連盟（新井 和夫）

栃木県スキー連盟の新井です。いつも毎年東京で会議を行っていますが、今回だいたい皆さんの顔ぶれも違い、夜が非常に楽しみです。栃木県の事業は準指、指導員の研修会での安全講和、特に今年度は教本が変わったということでその辺の話を安対としてさせて頂きました。またパトロールの養成講習会、それと準指、指導員の受検者養成講習会、栃木県では5か所のスキー場がありまして、年間約500件の怪我人が出ておりますが、その傷害調査という形で毎年同じことをやっております。以上です。ありがとうございました。

○埼玉県スキー連盟（伊藤 清美）

こんにちは、埼玉県スキー連盟の伊藤と申します。よろしくお願ひします。資料はありませんので報告のみとさせていただきます。今年度パトロール受検、県連から5名受検させて頂きまして、そのうち4名合格させて頂きました。先生方色々とお世話になりました。残念ながら1名、去年1名、今年1名と不合格者を出してしまひまして、県連の受講生に対する講習内容に問題があるのかと今色々と考えている最中です。出来れば全員受検者合格を目指して来年度は頑張っていきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

○神奈川県スキー連盟（笹生 修一）

神奈川県スキー連盟安全対策委員笹生と申します。委員長が研修でおりませんので代わりに報告させて頂きます。去年のになりますよろしくお願ひします。最初に安全対策委員会につきまして前年の反省と次の方針を決める会議があります。養成講習会で安全に対する安全講和、理論と講習なのを行います。パトロール養成講習会、理論、赤十字救急員講習会、スノーボード指導者養成講習会、理論更新、続きまして12月20日過ぎに安全対策専門委員の理論講習会、これを受けないと講習指導が出来ないという形になっています。養成講習会の実技が五竜1でありました。五竜2でSAJパトロール研修会、今年10名です。同じ時期にBC講習会で講師派遣、雪崩などの方面の理論講習、実技講習等を行います。最後に去年行いました技術選大会で大体1名の行事があります。雪なし県として現場における指導者、事故防止についての意識付けを積極的に行う。神奈川県の雪なし県としての方針であります。公パト受検者を増やす為の秘策を委員会として検討していきます。今年受検者6名になりました。あと研修生を増やすという秘策も委員会として検討していきます。残念ながら今年は減ってしまったのですが他県から研修会に来て頂きました。以上神奈川県からでした。ありがとうございました。

○富山県スキー連盟（原野 浩司）

皆様お疲れ様です。富山県スキー連盟の原野と申します。よろしくお願ひします。資料は用意しておりませんが簡単に説明させていただきます。今年初めて技術委員になりまして色々12月から大変お世話になりました。富山県では11月末に各スキー場のパトロールの情報交換会を行ひまして色々な課題について話し合いをしまひました。12月に入りまして雪の少ないシーズン初めでしたが石川県さんからの誘ひがありまして富山県と石川県の合同で公認パトロールを受ける方々に養成講習会ではなく合同練習会のような事を今回初めてさせて頂きました。初めてながら楽しい6名の受講者が居ましたが富山と石川でたくさんの講師を迎えて6名を取り囲むような状態で講習会が出来たのが大変印象深く思っております。1月14日と15日福井県の今庄スキー場で公認パトロールの養成講習会で私ともう1名で富山県から参加しまして富山県からは3名の受検者を出しました。お陰様でなんとか公認パトロールに

3名合格しました。県の公認パトロールもありましてそこでは2名の受検者に対して2名とも合格という事です。今後の課題として今日、全日本のモーグルの大会がたいらスキー場という所でやっています。昨日連絡がありまして怪我人続出でアキヤボードが足りないという事で、急ぎよ持って行ったような話もありますがこういった大会が毎年行われているという事と、4年後富山県で国体があるという事で大会に向けて安全対策部として体制をもう一度しっかりと見直して、道具の更新とかも予算のない中でやっていきたいと思っていますのでまた色々教えて頂けたらと思います。よろしくお願ひします。

○石川県スキー連盟（吉本 幸司）

皆さんこんにちは、石川県スキー連盟本部長吉本です。今年から本部長になりましたので顔を合わせていない方もおりますけれどもよろしくお願ひします。事業報告をしていきます。12月25日に準指、指導員検定受検者の安全講習の講師として講習しました。12月1日に室内研修を実施しました。新しいザイルワークに有資格者皆宿泊してちょっと油断していました。教本を見ながらやって皆さん覚える形にはなりましたが、多分ほとんどの方が忘れていと思うのでこれは毎年実施していかないといけないと思います。12月7日にドクターパトロールによる講演会、整形科の先生を呼びまして骨折、打撲、捻挫などの後の後遺症などの講演をして頂きました。3月12日に雪上研修会、弱層テスト、事故が起きてましたけど雪崩危険性による一般客対象のみでなく自分自身の身を守るという基準でも審査して頂きました。受検者養成講習会先ほど富山県連さんから言って頂きましたけれども石川県と合同で1回やらせて頂きました。石川県の受講生足手まといですいませんでした。養成講習会が室内と雪上合わせて9回実施しました。3名受検しましたが一番高齢の方65歳が残念ながら落ちてしまいました。あと2名は合格しました。細かい事業報告等はFACEBOOK 石川県スキー連盟安全対策部で出ていますので皆さん「いいね！」を押してください。以上報告を終わります。

○福井県スキー連盟（中村 重夫）

福井県スキー連盟副会長をしております中村でございます。12月7日から9日に掛けまして研修会、講習会等、講師を迎えて研修を行っております。1月14日と15日ブロックの養成講習会を始めて当県で主幹を致しまして13名の方に参加して頂いたと報告がございましたが、数名の指導者が担当し受検者を見ておりました。指導員検定も4名受検をしたのですが1名残念ながら落ちてしまいました。1月中旬に公認パトロール養成講習会を行っております。3月2日と3日SAJ公パト研修会を行っております。2年に1回各県から参加を協力頂きまして開催いたしております。その他各大会の救急要員を派遣しております。1件だけ事件がありましたのでご報告致します。スキージャム勝山という大きなスキー場があるんですが、外国のボーダーの方がコース外を気が付かないで下まで滑って行ってしまっ、幸いにして電話届くところを滑って降りたので、たまたま緊急の要請が本人からスキー場に入ってきて、スキー場の方では防災ヘリを飛ばして頂いたという事で、大事に至らずに済みましたが、こんな事がしょっちゅうあるのではないかと感じておりました。最近中国、インドネシア、フィリピン、欧米の方たちもスキーに来ておりますので、今後こんな事故が増えるのかと思ひました。スキー場の方はコース外を滑らないように色々な対策をしておりますがなかなか減らないのが現状です。以上です。

○山梨県スキー連盟（舟久保 元孝）

山梨県スキー連盟の安全対策委員長の舟久保です。久しぶりに総会に顔を出して山梨県はパトロール隊員が非常に少なく、各スキー場、あまりないのですがスキー場の中で隊員を確保すること自体が難しい状況で活動自体、全体としては出来ないのが現状です。その中でスキー場毎に指導員の養成講習の安全対策を個々にやっている状況です。ジュニアのポール大会の安全対策部員を派遣しましてパトロールの連盟としての活動自体があまり出来ない状況です。今回久しぶりに顔を出して他の連盟スキー場の現状を把握したいと思ひました。活動が出来ない状況の中で出来るだけ前回は各スキー場のパトロールの隊員とのコミュニケーションを出来るだけ取りたいなと気持ちを持っている中でなかなか出来ない。もっと気軽に参加し活動出来ればいいなというような気持ちで今回参加させて頂きました。

○岐阜県スキー連盟（内方 陽一）

こんにちは、岐阜県の連盟から来ました安全対策部副委員長をやってます内方といいます。よろしくお願ひします。総務の★★です。よろしくお願ひします。皆さんの手元にある会報を見てください。県スキー連盟の会報は毎年10月末に公認パトロール、県のパトロールの会員の皆さんに配布しております。現在367名の隊員に配っております。450部位作って配布しています。内容は事業報告と事業予定

と会員の名前とかまた、2 ページ目にある組織図のメンバーで安全対策部は活動しております。部長を始め専務技術員などで行事等を行っております。その後は昨年度の行事報告がありまして、隊長会議の報告がありまして、次は今年度の行事予定が書いてあります。今年度の行事報告をさせていただきます。10月29日と30日日赤基金の講習です。1月29日県パトロール研修会 SAJ からの伝達を行いました。2月24日パトロール隊長会、たかすスキー場で現場視察と検定会の連絡、及び各隊長が集まりまして会議を行いました。2月24日と25日県の公認パトロール研修会、2月24日から26日岐阜県の公認パトロール養成講習検定会、ホワイトピアタカスで今年は8名の受検者がいて8名合格致しました。第1回全国スキーパトロールの総会に2人出席させて頂きました。今年は岐阜県からはSAJの公認パトロールの検定会には1人も出なかったのなるべく多く出るように指導していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。ありがとうございました。

○愛知県スキー連盟（小椋 健司）

愛知県スキー連盟の小椋です。愛知県では準指養成講習会にパトロールを派遣して講習を行いました。1年位前に競技部からの要請で、クロスカントリー競技中の心臓発作に備えて、県連がAEDを2台レンタルで導入しました。せっかく導入しても役員がAEDを使えないと話にならないので講習会をしましたが受講者の意識が低く、競技は競技だけに没頭し、教育部にしてもただ検定に受ければいいという感じでした。一番大切なのは安全だと思うんですが、その辺の認識が若干低いと感じています。役員は怪我人が出た時にどうするんだ。養成講習会でも受講生は指導者の事ばかり見ていて、一般客とぶつかることが非常に多い。現在の安全対策部は教育部の中に入っていて、うまく合体出来ていない。AEDを導入した機会に、教育部から競技会や講習会の際は安対の間も参加するよう言われ今年の案件は通ったのだけど、今まで実績がないのでいい結果が出ないのがこれからの課題ではないかと考えています。AED講習は消防始め色々な所で受けられるけど、実際必要なときに使えないのでは意味がないので、AED講習の受講をすすめていこうかと思っています。

愛知県唯一のスキー場があり、今までは村営でやっていたので愛知県連にパトロール要請があったのですが、民間に移ってからそのあと村営に戻り、やはり地元のパトロールだけでは派遣がまかなえないという事でまた、県連に要請が来るようになったのですが、去年は16名、今年は7名派遣しました。かなり地元で補えるなど、またパトロールの受検生も増えて地元のパトロールが増えたという事でだいぶ穴埋めが出来ようになりました。僕が今年2月18日に入ったとき、不屈な輩が見えて辺鄙なスキー場なので小さい子供連れてきて下の斜面の雪の所で遊んでいるんですが、斜面は傾斜があるのでそこで子供が遊んでいる所に上からショートスキーが流れてきて女の子が負傷し、親が救急車呼んでほしいというので呼んでも1時間位掛かるので取り敢えず母親に三角巾を押さえてもらいタオルで拭いたら大分血が止まり落ち着いて、救急車が到着して乗せていったのですが、その時に場内放送でスキーが上から流れてきたので、流した人を呼び掛けたのですが申し出はありませんでした。さらに同じスキーが同じ状況でもう一度流れてきて、明らかにスキー場に捨てていった人がいるという事です。そんな事あってはいけないと思ひ犯人捜しをしたのですが見つかりませんでした。上に駐車場がありまして物を捨てられたりしている状況にあったので、これからはその辺も注意しながらスキー場管理したいと思います。

○三重県スキー連盟（竹内 和雄）

皆さんこんにちは、三重県スキー連盟の竹内といいます。まず昨年6月わざわざ遠い鳥羽の地までお越しいただいた方ありがとうございました。三重県スキー連盟安対部資料はございません。行う行事としましては指導員、準指導員受検者の講習会で少し話をする程度でお茶を濁しております。こういう状態はしばらくまだまだ続くと思ひます。どうか皆さんよろしくお願い致します。

○滋賀県スキー連盟（井上 修三）

皆さんこんにちは、滋賀県スキー連盟安対部の井上です。滋賀県スキー連盟安全対策部29年度の活動報告をします。滋賀県の公認パトロール養成講習会理論を16年11月13日役場にて参加者が2名です。17年1月11日箱館山の会場で行いました。これも2名です。滋賀県スキー連盟公認の有資格者研修会と並びに更新の講習会、実技を1月18日琵琶湖バレースキー場で5名、2月11日箱館山で6名で行いました。2月12日に県のパトロールの検定会を箱館山で行いました。2名の合格者が出ております。SAJの公認パトロール研修会2月4日と5日に、米田先生に専門委員として参加させて頂きまして13名の参加がございました。市の消防とタイアップして毎年やっております。消防のロープの結び方、建屋からの降り方、色々講習させて頂きその中で消防の方からスキー場での搬送をした事がないので、後日改めて一緒に講習会をして頂きたいと申し入れがありました。2017年2月に県内6会場のスキー場の傷害

調査。ドクターパトロールの有資格者の傷害調査の集計は現在進行中ですのでもうそろそろ結果が出ると思います。教育部より派遣の依頼です。正指、準指導員の養成講習会、理論講習。講師としての出席、それから16年10月。教育部よりの派遣の依頼が裏面の所に載せてあります。6件の依頼がありました。今年公認パトロール検定会で滋賀県から1名の合格者が出ております。以上で報告を終わります。

○兵庫県スキー連盟（西垣 勲一）

兵庫県スキー連盟委員長代理の西垣です。資料はありませんので口頭で報告します。兵庫県スキー連盟ではスキースノーボードの傷害調査アンケートを実施し、集計結果をグラフ化して年1回発行のスキー標語に掲載しています。また指導員、準指導員受検者養成講習会におきまして安全対策の講習を担当しております。スキーパトロール隊員のヘルメット着用を推進しております。以上です。ありがとうございました。

○鳥取県スキー連盟（宮本 亮）

鳥取県安対部委員長代理の宮本と申します。資料はありませんので口頭で簡単に説明させていただきます。11月29日スキー指導員、準指導員受検者の理論講習での安全対策の意識についての講習を行っています。同日に安対部として赤十字の方に講師をして頂いてAEDを使って人工呼吸、心臓マッサージ等の指導をして頂きました。その時、三角巾、現場での骨折等の時に段ボールを使った副子固定の講習を行いました。毎年行っておりますがシーズン当初に雪上でのバックボードで搬送訓練を行うのですが、今年度1月の上旬雪が非常に少なくて営業が出来ない状況でしたので、訓練が中止になりました。なかなかその後になると皆さんの日にちが取れなくて結果的に延期ではなく中止になりました。以上です。

○長野県スキー連盟（田村 一司）

皆さんこんにちは、長野県スキー連盟安全対策部長です。まずはお詫びですが、直線20キロ辺りにヘリコプターが落ちてしまい、中に乗っていた消防隊員、航空隊員の中にはうちのスキー場へも来てくれた人もいたり悲しい事が起きました。はっきりした原因は皆さんの耳にはまだ入っていないと思いますが、皆さんが感じてられるような原因だと思えます。なかなかいつもよりも大勢乗っていた所に何かいつもと違う事が起きた事ではないかと専門の方も言っております。それを救助しに行った長野県警のヘリも3人で行ったのですが2人は後輩でパトロールとヘリコプターの防災の方も警察の方も長野県の場合知っている者がいるのでとても心配している状態です。もう一つお詫びですが、戸狩スキー場で今年スキーカットをしていてパトロール1人を亡くしてしまいました。それも知り合いです。スキーカットは4人で行ったんですが、詳しい内容は来年報告できると思います。色々なことがありました。報道されていない事もあります。ただ亡くなられた方がおりデリケートな問題でもあり、ここから何か発信されては困りますのでこの位にしておきます。ただ原因を作った3人目にカットしたのはいつも一緒にやっている長野県の技術員で、それにより自分より年上の人を亡くしてしまったという事です。心の中は悲しい思いですが来年には皆さんに報告して役に立てばいいなと思っております。その前の時にBCでうちのパトロール隊員が雪崩に巻き込まれて死亡してしまいました。それもまた数年たつと話が出るので何かの役に立つと思えます。他県連の中でもパトロールの検定制도를持っていたり研修制度を持っていたりする所があるかと思えます。長野県の県のパトロール受検者は20人から30人、今年は22名、去年が24名です。若干減っては来ていますが、長野県のパトロールには受検に来ていますが公認のSAJパトロールとなりますと今年は2名、去年は4名おりましたが、なかなかこの比重が違って全日本のSAJのパトロールの方が繋がりが多いため色々な情報が入りますので、この会を推進、推薦はしているのですがお金が掛かるので長野県の策道事業者、リフト動かしている人達と長野県スキー連盟で長野県のスキーパトロールを作っています。長野県スキー連盟が県のパトロール制度を作っているのではなく、策道事業者、自分たちがパトロールをやっている会社がお金を出してパトロールの検定制、研修会制度、研修会は毎年60人以上集まります。でSAJの方は3、4人しか来ていない。長野県がもっとここに来れるようにしたいと思います。ただ今もずっと営業しております先ほど人手不足という話がありましたが長野県は結構いいお金でパトロールの資格を持っていれば雇っているんですが、それでも初めはお金が安いから来ないのではないかと、これだけ重労働させて1万円いかないのでは駄目だなという事なるべく索道の方に、リフト会社に働きかけて1万円以上出して下さい、長くいたらこれ位出すとか、それ位の価値はあるんですよという事を索道協会に講習会に行った時も話をさせてもらっているんですがお金が高くて来てくれない。各スキー場のパトロールの人数が少ないので、仕事が多くなってしまっています。皆さんと同じように準指、正指導員養成講習会等もやっておりますし、今は雪崩事故も多いんですが、長野県のSAJの技術員が3名です。専門委員が1名、県の技術員が12名

います。その中で安全対策を取っている訳ですが、長野県は索道と仲が良いので、安対は教育部から出て行けという事で5年位教育部から出されて総務部といういろんな事をするただの一つの所に追いやられていましたが、スキー学校の中での事故等でもパトロールが出掛けなければいけないし、解決もしなければいけない、報告もしなくてはいけないという中でやはり全日本スキー連盟と同じように長野県スキー連盟も教育部にいた方がいいのではないかとということで去年から教育部に戻りました。それで委員長と話をしながら、指導員研修会に講師として呼んで頂いてそこで安全対策やスキー学校の事故報告をしています。最近よく話しているのがスキー学校中のボーダーと衝突で女の子が亡くなってしまったというのを報告しながらスキー学校の講習会に行っています。特に今年はデモの皆さんと新潟と山梨も含めた甲信越の主任講師の研修会、スキー学校はそれを受けないと営業出来ませんので、デモと一緒にやるんですが、その講習会でも今年は話をさせて頂きました。それはスキー学校の先生方、スキー学校のウェアを着ていると、どんな形でぶつかっても裁判になると負けるよとか、具体的に話をさせて頂いております。先ほども色々な問題が各県から報告されましたけれども、これからも信じられないような問題が出てこようかと思えます。その時にやはり怪我に関して、また安全に関して私どもが知らないというわけにはいきませんので分からないことはどんどん周りの方と色々な話をさせて頂いて自分の知識にして頂ければありがたいと思えます。そんな風に私も今まで人の話も自分さもやったような事で皆さんに報告しておりますがそれもまた大切なことだと思います。ここで話す話は自分の話としてどんどん広めていってもらえればいい事だと思います。長野県からの報告は以上です。

○新潟県スキー連盟（川内 慎吾）

最後に新潟県より資料はありませんので口頭で簡単に報告したいと思います。準指導員養成講習と公認パトロール養成講習は皆さんと同じで準指の養成講習に関してはロープ、三角巾の講習、雪上の講習、他に準指導員養成講習を参加される方にはボードを引いて体験してもらっています。ですから新潟で準指導員取って、指導員取って、デモになった人たちはボードも間違いなく引けます。パトロールに関しては今年新潟県で公認パトロールの検定会を行ったわけですが、5名しか受検者が出ませんでした。県内のスキー場に聞いたら今実情は隊員の数が少なく、なかなか検定会に皆を出すのは難しいという事です。ほかに意見が多かったのが、今まで何年もやってきて公パト持っている人達より自分達はうまい。知識はないけど技術は、スキルはある。別に取る意味ないんじゃないのという言葉が結構聞きます。そこでそうではなく、こういう世界で皆さんと一緒に色々な情報交換する場がありますから是非取って下さいとお願いをしてなるべく取るようにお願いしています。今後どうすれば公パトを受ける受検者が増えるか皆さんで考えていきたいと思っています。よろしくお祈りします。以上です。

【司会】質問は？

Q：資格を更新していない人が2/3いて、そのような状況でのパトロール活動はいかがなものか？

A：研修会を受けるという事は、ひとつ公認の資格を継続するという事だと思います。公認の資格を継続するという事は3年に1度研修会に出てもらおうという事で、常に新しい情報だとか、知識だとか取り入れていくのと、自分の技術の計算という部分で、非常に大事な機会だと思いますので、是非3年に1度の研修を受けていただいて、資格を継続してもらいたいなというのはあります。開催によっては、パトロールの資格を持っているもの、持っていないもの、手当で違いがあるとか若干の差があるとかそういう部分があると思うのですが、いろいろな事情で研修会に参加できない事情とかあると思うのですがSAJの会員登録をして、パトロールの公認登録、いずれとしてはお金なのですが、ちまちまと払って継続してもらえれば、研修会に参加すれば次の年から資格はちゃんと復活するよと。

3年に1度たとえ停止状態という事で、いろいろな何かが起きた場合に雇用主だとか訴訟問題とかで、そのものがちゃんと資格を持った者が手当に当たったかという部分ではやっぱり若干影響はあるのかなと思うのですけど。

本人が自己研鑽を高めていくという意識付けを持っていくためには、是非取ってもらいたいなと。

自分の内輪だけでやるのであれば、それは周りのそれで了承していれば、それはスキー場で了承していれば、スキー場が雇用主なので責任の範囲であればそこは何とも言えない部分であると思うのですが、こちらとしては受けてもらいたいと。

いろいろお金もかかる、手間もかかるけれども、必ず来てもらえれば持ち帰る部分も必ずあると思うので、是非「言った方がいいよ」と勧めてもらえればと。

Q: ただもし事故があったときに、そういう人が救助するとか、もめ事があったときに訴えられないか懸念もある。こういうところはどうかでしょう。

A: もう過去の話で皆様ご存知だと思いますが、事故が八方尾根で起きた事があります。八方尾根でアキヤを引いていて、そのパトロールがアキヤを放してしまって、転んで放してしまって、骨折の患者を運んでいたのですが、死に至ってしまいました。そのときにパトロールの資格のない者がアキヤを引いていました。それで死亡事故です。マスコミも大きく取り上げて、なんと資格のないパトロールがボートを引いて死亡させてしまったという事が新聞に報じられたのですが、それはもう25年も前の事です。そのときには、八方尾根のリフトの会社が、いやいや、このパトロールは資格はなくても、うちのパトロールとして6年か8年やった、指導員の資格は持っていたようなのですが、すごく救急に対して怪我に対しての歴史、経験もある。そこで、そのときは何も資格がなくても問題にならなかったということが一つあります。しかし、今時代が変わってきています。特にほとんど裁判の事例で物事って動いてくるんですけども、今、裁判、弁護士の方とお話をする機会たくさんあって、聞くとやはり資格はきちんと持っていてくださいと。それは過失があったときに、会社で例えば何千万払いましょうと、裁判があった結果が、本人、パトロールに対して、怪我を迫らせてしまったパトロールに対して、会社には何千万、その人には何百万という風に個人に送るのですが、その割合は高くなるでしょうということは今聞いています。あまりにも生々しい話なので裁判例として、なかなか出てこないんです。ですから先ほど委員長が言っていたように、不利になるという事はこの時代確かです。やはり携わっている人はしっかりと継続をして、パトロールとしてパトロール業務に付いていただきたいと思いません。そんな答えでよろしいでしょうか。

【司会】この後、講演会のあとに討論会の時間もありますので、地域の方と皆様と一緒にディスカッションしていただいて、聞きたい事、いろんなことを討論していただく時間もございますので、そのときにまた答弁していただけたらと思います。

それではこれで委員長会議を終わります。

(5) 日本スキーパトロール協議会報告 (JSPA 事務局長 保坂 淳司)

皆様おつかれさまで。委員長会議の中で東京都連からの報告という話がありましたが、安全対策委員長会議に東京都連欠席は始めて以来で、どこでどうなったかは知りませんが。

今回は日本スキーパトロール協議会の方でお話をさせていただきたいと思えます。皆様に資料としてお配りした弊会会報は、年に2回発行しております。発行部数1500、発送部数1200です。各県連の事務局にも2部ずつお送りさせていただいています。あとまた、合格されたかが付けられるSAJの公認パトロールのネームプレート、それから県によってはいる所とない県があるのですけれども、ドクターパトロールSAJのドクターパトロールの公認のネームプレートを作成しております。またJSPAのほうのネームプレートも作成しておりますので、お申し込みいただければと思います。それから、今年から名刺を作成できるように準備ができました。これは、片面、両面、それから写真付き、ソフトタイプ、紙質もかなりいい物を使っていますので、これに関しましてはホームページの方からお申し込みをいただくので、必要な方はホームページを通してお申し込みください。

昨年三重県で総会をやらせていただいて、百数十名の方がご参加いただきました。今年度につきましては、滋賀県のご協力を得まして、琵琶湖畔で8月の最終土日にJSPA、日本スキーパトロール協会の総会を行いますので、奮って皆様ご参加いただければ幸いです。総会詳細につきましては、5月の発行予定の会報で総会の詳細、今回の研修会とかパトロール総会、また委員長会議の模様も記事を書いた会報をお送りしますので参照いただければと思います。

最後になりましたけれども、先ほど委員長会議でもありましたFIPSです。私、20数年前にカナダに行きましたし、韓国にも行きました。そのときの日本からの選手団、参加者、20名を超えた事もあったんです。すごく盛り上がりまして皆各国の交流ができるということで、すごくいい思いをさせていただいたんですけども、ここ数年、数回、人数が少ないんですけども、次回ロシアということで非常にビザが取りにくい国ですので、何らかの形でまとめられればと思って、私の方でも下準備を始めていますので、参加希望があれば私の方に連絡ください。これはJSPAでやるのではなく、保坂がやるんですけども、ご連絡いただければと思います。以上です。

【司会】閉会宣言